

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2012-09-20

# APM news 070

## 秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8  
TEL 0258-39-1233

第16回美術館大学

### 「ワルシャワ国際ポスタービエンナーレについて」

8月3日(金) pm 3:00~4:30 / 受講者: 67名 / 講師: 甲賀正彦、御法川哲郎、秋山孝



「ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ」とは、世界初のポスタービエンナーレとしてポーランドで1966年にスタートした。部門はイデオロギー部門、文化部門、広告部門、その他の部門の4つがある。隔年で開催され、2012年で23回を迎えた。若いポスター作家にとって登竜門であり、世界のポスター作家が出品する国際コンクールである。今回の美術館大学では、2012年イデオロギー部門金賞受賞の御法川哲郎氏、2012年文化部門銅賞受賞の甲賀正彦氏、26年前の1986年イデオロギー部門金賞受賞者であり、審査員も務める秋山孝館長の3名が、ワルシャワ国際ポスタービエンナーレについて語る。

まず、秋山館長よりワルシャワの基礎知識が地図や写真といった画像とともに紹介される。ワルシャワはポーランドの首都であり、ヴィラヌフポスター美術館がある。ヴィラヌフポスター美術館はもともとヴィラヌフ宮殿の馬小屋だった建物を美術館へと改装したもので、ポスターに特化した美術館である。銀行だった建物を美術館に生まれ変わらせたAPMとどこか共通するものがあると語った。旧市街の町並みの美しさにも言及し、戦時中、ドイツ軍に壊滅させられた街を、一枚の図面もない状態から復元したワルシャワの人々の熱意を讃えた。ビエンナーレの様子も、多くの写真とともに紹介された。街中いたところに貼られたポスター、華やかな表彰式風景、厳しい審査の様子が映し出され、ビエンナーレの空気が伝わってきた。審査風景では、議論を尽くし、審査員の中には体調を崩す人が続出するという秋山館長の言葉に、世界のトップレベルの厳しさと激しさ、責任の重さを感じた。

質疑応答の時間には興味ある質問が続出した。長岡造形大学視覚デザイン学科の吉川賢一郎准教授からは、3名の講師に「いいポスターとは」という質問がなされた。御法川氏は図と文字と、そのふたつが作り出す意味の3つの関係がいいもの、つまりメッセージと表現のバランスのいいものではないかと述べ、甲賀氏は「コンクールにおいて入選以上はすべていい作品である」という原則を述べた上で、秋山館長が以前語ったという「多くの中で1つの優秀な作品を見つけることは困難であるが、1対1では必ず優劣がある」という名言を持ち出し、いいものは直感で判るのではないかとユーモアたっぷりに主張した。秋山館長は、目的があり、その目的に沿ったものや、人々を動かす力のあるポスター、心に残るポスターはいいポスターであるとした。最後に講師の御法川氏から「ポスターに執着した理由は」と質問された。甲賀氏は制作しないと秋山先生に怒られるからである、と会場を笑わせた。それを受けた秋山館長は、人に対して徹を飛ばすのは、翻って自分に対する激励でもあるのだと述べた。20代の頃にポスターを描き続けようとして、以降ずっとポスター制作を続けてきた。真剣に取り組み、継続してきたものこそ正しい答えを出せるので、これからもポスターにこだわっていきたくて締めくくった。(APM公式ホームページより抜粋)